



かめやま —在宅医療連携システム— ホームケアネット

～安心して自宅で療養できること～

「住み慣れた自分の家で療養したい」「最後まで我が家で家族と一緒に自分らしく過ごしたい」と願う人は少なくありません。

しかし、身体上や環境上の理由により、通院が困難な場合もあります。

そのような方のために、新しい医療の選択肢の一つとして、亀山市で進めている、在宅医療連携についてお伝えします。

新しい福祉のあり方「地域包括ケアシステム」

急速に高齢化が進んでいる日本。10年後の2025年には、全国で3人に1人は65歳以上という時代を迎えます。今後、医療や介護を必要とする人が増え、現在の体制では十分な対応が難しくなると見込まれています。そんな中、高齢者等実態調査(基準日：平成23年3月1日 鈴鹿亀山地区広域連合が実施)では、介護が必要となった場合、訪問介護や通所介護などの介護サービスを受けたり、家族に介護してもらったりして、約7割の人が自宅で生活を続けたいと回答しています。

そこで、住み慣れた地域で安心・安全な生活を続けるために、「地域包括ケアシステム」という新しい福祉のあり方が検討されています。

具体的には「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の5つの支援が必要とされ、中でも身近な地域での「医療」が最も大切と言われています。

「地域包括ケアシステム」のイメージ



出典：平成25年3月地域包括ケア研究会報告「地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点」

「治す医療」から「治し支える医療」へ

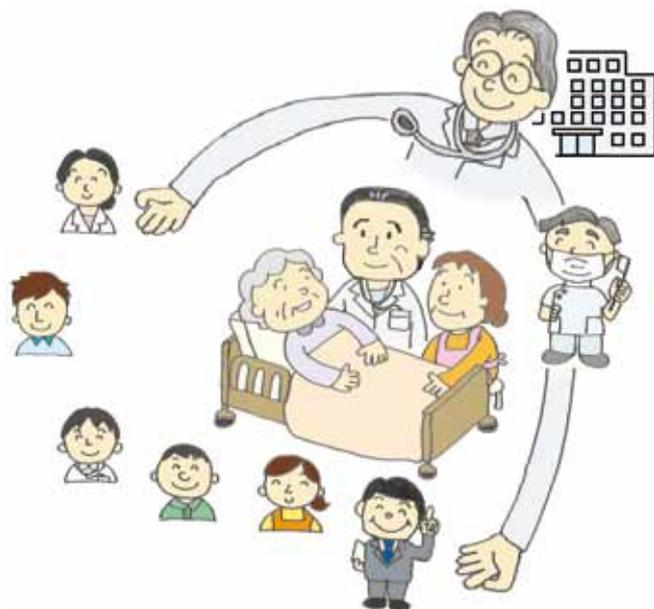
病院での治療は大切ですが、同時に、高齢期でもいかに生活の質を保ち、自分らしい人生を送ることができるかが求められています。つまり「治す医療」から「治し支える医療」への転換が必要な時期に差し掛かっています。このように時代の要請に応えるためにも、一つの選択肢として、在宅医療が必要とされています。

点から面の関わり「かめやまホームケアネット」

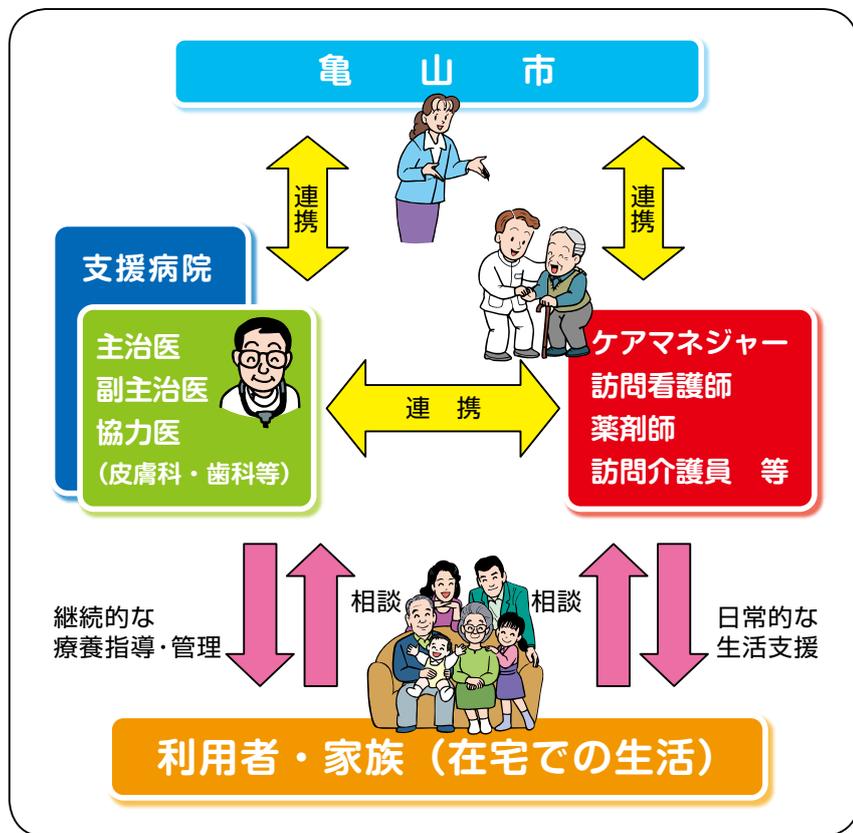
亀山市でも、身近な地域で安心して医療や介護サービスが受けられるよう、在宅医療の充実と在宅医療・介護の連携により、切れ目なく必要なサービスが提供される支援体制の整備が求められています。

そこで、昨年4月、医療・介護・福祉の多くの専門職の協力を得て、在宅医療連携システム「かめやまホームケアネット」の試行を始め、今年の2月22日に出発式を行い本格稼働しました。

「かめやまホームケアネット」では、地域包括ケアシステムの一環として、医師会・歯科医師会をはじめ医療・介護・福祉の多職種が連携し、在宅での生活を支援しています。



かめやまホームケアネット 仕組みと特徴



- 医師だけでなく、ケアマネジャーや訪問看護師、訪問介護員、薬剤師などの多くの専門職がチームを組み、「自宅で療養するには何が必要か」という視点で、その人らしい生活が送れるようサポートを行います。
- 主治医だけでなく、主治医を支える副主治医を定め、複数の医師で支援を行います。
- 入院治療が必要な場合に、みえ呼吸嚥下リハビリクリニックまたは市立医療センターが支援病院として、入院治療を行います。
- 内科以外の専門診療科（皮膚科や歯科等）の医師も協力医として、往診で在宅療養を支えます。

Q ホームケアネットを利用する人は、どのような人ですか？

A 通院が困難で、介護保険サービスを利用し、在宅療養を希望する人であれば、病気の種類に関係なく、主治医の了解を得て利用することができます。利用に当たっては、ケアマネジャーが中心となり、支援する職種の人が集まり、療養の方向性や家族・本人の希望について話し合います（カンファレンス）。

Q 自宅で過ごしたいけど不安が一杯です…

A 「家族に迷惑をかけたくない」「自宅で介護するのは何かあったら心配」と、家族への負担や病状への対応の不安から在宅での療養をあきらめていませんか。介護保険等のさまざまなサービスを利用して介護負担を少なくできるよう、医療・介護福祉の多くの専門職と一緒に考えていきましょう。

かめやまホームケアネット Q & A

Q いざという時は大丈夫？

A 在宅療養を行う際の、患者と家族の一番の不安は、急な病状変化時の対応と言われています。「かめやまホームケアネット」を利用する場合、定期的には主治医の先生が訪問診療を行い、訪問看護師もチーム員として参加します。訪問看護師は、定期的な訪問に加え、必要があれば、いつでも相談に乗り、緊急時には、医師と連絡をとりあい、対応にあたります。

Q ホームケアネットを利用するには、どこに相談するの？

A まずは、主治医や担当のケアマネジャーに相談してください。主治医や担当のケアマネジャーがいない場合は、亀山地域包括支援センター「きずな」（あいあい④番窓口）へご相談ください。

かめやまホームケアネット出発式と 在宅医療講演会

2月22日、市文化会館大ホールで「かめやまホームケアネット出発式」と「在宅医療講演会」が開催されました。

「かめやまホームケアネット」の本格的なスタートにあたり、出発式では櫻井市長による出発宣言の後、制度の説明や事例が紹介されました。



医療法人ゆうの森
理事長 永井康徳さん

また、『住み慣れた場所での看取りのあり方～自分らしい「生きかた＝逝きかた」～』をテーマに、「医療法人ゆうの森」理事長の永井康徳さんによる在宅医療講演会が行われました。

永井さんは、愛媛県初の在宅医療専門診療所「たんぼぼクリニック」を平成12年に開業し、医師複数体制でチーム循環型地域医療を実践されています。講演では「患者さんの幸せや生き方に向き合う医療のあり方として、“治し、施す医療”から“支え、寄り添う医療”が求められています」と、在宅医療の必要性を語られました。

かめやまホームケアネットを 利用された方の声

※かめやまホームケアネットを利用されたご家族からお手紙をいただきました。

かめやまホームケアネットの皆様には、約3か月にわたり手厚いご支援をいただきました事、誠に感謝申し上げます。

昨年10月25日、母が体調の不良を訴え、病院に入院しました。即急な対応により腎ろうを造設し、激しい痛みからは解放されましたが、病名は尿路膀胱ガンと診断され、すでに手のつけられぬ末期の進行ガンである結果を受けました。

母は、すべての延命治療を断わり、残された大切な時間を家で過ごす事に決めました。

本人の意思に沿うという事は時に家族にとってはつらい選択をしなければならぬ事もありました。

訪問看護さんには、毎日のように訪問していただき、家族ではできない医療面を支援していただき、また母のことばに耳をかたむけ不安に寄り添っていただきました。

そして、主治医の先生に往診していただく事で母はさらに安心感を得る事ができました。

何より、痛み止めの専門治療でお世話になった、副主治医の先生には、母は思ってもいないしあわせな時間をいただきました。音楽が大好きな母のためにすてきなピアノ演奏をありがとうございました。

在宅ケアにおいて家族ができる事といえば、普段と何ら変わらぬ時を過ごすのみでした。

皆様の心あたたかいご支援本当にありがとうございました。

どうか、これからそして現在かめやまホームケアネットをご利用の皆様ですてきな時間が流れてくださいますように、このようなすばらしい支援のあるふるさとを私は誇りに思います。

「かめやまホームケアネット」の問合・利用申込先

亀山地域包括支援センター「きずな」(あいあい④番窓口) ☎ 83 - 3575